

海光町学園

小佐々中学校だより

第23号

令和5年12月22日

バージョンアップ! 小佐々中



※バージョンアップ…状況に応じて、さらに発展、進化、成長すること。

文責:校長 佐々木 則弘

令和5年度第2学期 終了

～2学期終業式 校長講話より～

今日は2学期の終業式です。生徒の皆さんにとってどんな2学期となったでしょうか。

始業式で私は皆さんに、「2学期は、自主的、主体的に取り組まなければならない場面が多くあり、皆さん一人一人の自主性・主体性が大きく育つことを期待している」という話をしました。併せて、「自主性、主体性のない人はいつも嫌々物事に取り組むからおもしろくないし、良い結果も出ない。そしてそのことを他の人やまわりの環境の所為にして、愚痴や文句が多くなる。反対に自主的、主体的に考え行動する人は、どんどん新しいアイデアが生まれ、それを実現しようと努力する。だから良い結果が出せるし、ますますおもしろくなっていく。さて、皆さんはどちらの姿を見せてくれるでしょうか」と問いかけました。

さて皆さん、2学期の生活の中で、「自主性」「主体性」を育てることができましたか?ここで「自主性」「主体性」の違いについて、改めて確認しておきたいと思います。

「自主性」とは「やるべきこと(具体的な行動)がはっきりしている中で、周囲から言われなくても率先して行動(実行)すること」、「主体性」とは「やるべきこと(具体的な行動)が決まっていない状況でも、目的を達成するために自分は何をすべきか考え、行動(実行)すること」、です。

日頃の自分の行動を思い浮かべてください。例えば決められていること(ルール、無言清掃など)を注意・強制される前に率先して行う人は、「自主性」がある人ですね。できていない人は自主性が不足していることになります。率先して実行しましょう。

行事や部活動、授業での調べ学習、家庭学習などにおいて、自分でどうすればいいか考えたり、友達と話し合ったりやり方を決めて取り組んだりできている人は、「主体性」がある人ですね。

このように考えると、「自主性」は「積極的な態度・行動」、「主体性」はそれに加えて「自ら考え判断する(意志)」が大事だと言えます。

大谷選手が夢を実現させるために書いた「夢ノート」を知っている人は多いでしょう。夢を実現させるために何をすべきかを自ら考え、誰に強制されることなく実行することで、誰もが認める世界的な野球選手になったのです。まさに、「自主性」「主体性」です。

明日から17日間の冬休みです。夏休みほどの長さはありませんが、毎日の時間は学校に通っている今よりも少しゆとりがあると思います。2024年を迎えるにあたり、「主体性」をもって具体的に実現可能な目標を立て、「自主性」をもって小さな努力を一つずつ積み重ねていくことを期待しています。

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動を見守ってくださり、本当にありがとうございました。明日から冬季休業に入ります。規則正しく健康で安全な生活が送れますよう、本校の生活心得を基に、ご指導よろしく願いいたします。

今後とも、保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力をどうかよろしくお願いいたします。



始業式は令和6年1月9日(火)です(下校:10:05 部活動中止)。

「日本本土最端中学校 Student exchange meeting」感想

12月14日(木)に開催した、日本本土最端中学校交流会の感想を紹介します。

【小佐々中学校生徒】

1年生	2年生	3年生
・色々な地域の人達とも交流でき、その地域のいいところなど知れたので良かったです。	・他の学校の校内の様子や、頑張って授業を受けている姿が印象に残りました。	・それぞれの良さを尊重し、短い時間の中でも仲良く交流することで、分かり合うことの良さを学びました。
・本土の東西南北での気温の違いや特徴などを知れて、見える世界が広がったと思います。	・最北端の学校の人達がとても面白かった。北海道と長崎では気温差がかなりあるということを知った	・質疑応答で、発表の中では知ることができなかったことをたくさん知ることができたのでよかった。
・東西南北の一番端にある学校が集まってその地域の環境や生活、ふるさとなどについて特徴や違いを知ることができ、自分たちが住む地域のことについても考えることができて、いい経験になったと思います。	・4校それぞれ全然違ったり微妙に違ったりなど違いを見つけることができた。同じ九州や北海道でも違いがあるなか漁業が盛んなところなどの共通点を見つけた。	・地域によって特色などの特産物が違って面白かったです。長崎と鹿児島は距離が近いので気温など少し似ている部分があって良いなと思いました。
・日本の最端の学校ならではのものを聞くことができて興味が湧きました。さまざまなふるさとを学ぶことができました。	・自分の住んでいるところだけではなく離れた場所のことを知っていることに興味を持ってました。	・4校交流会の発表の準備を通して、小佐々の自慢や小佐々中の伝統を、もう一度見直すことができた。
・東西南北それぞれの学校行事や地域の文化などが知ることができました。同じ日本でも、違う天気や温度があって面白かったです。	・北海道は寒く雪が積もっていて、日の入りがはやいことや、どこの学校も校舎がきれいで広いところ、人数が少なかったところや鹿児島の方言などが印象に残っています。	・東西南北。日本でこんなに文化が違うという事実が驚きだったし、遠くの人たちも本当に存在していて良い人たちが溢れているということを知った。

【参観者の方々】

・同じような海・山に囲まれた環境の4校でしたがそれぞれ地域の催し、授業内容で楽しい時間でした。生徒たちにも記憶に残るイベントになったと思います。準備していただいた先生、生徒たち、ありがとうございました。	・このような取組を実現なされたこと、素晴らしいと思います。各校の紹介、それぞれに特色があり良かったです。質問コーナー、リアルに相手やその土地を感じることができたよい場面でした。	・とても見ごたえのある交流会でした。県外の中生の様子を知れて良かったです。また開催してほしいです。DJ マークさんの司会も素晴らしいかったです。質問を通して子供たちが仲良くなっている姿がほほえましかったです。
・四極の中生みんなそれぞれの地域のことを分かりやすく楽しくまとめている、こちらも楽しかったです。若い世代のみんなが、こんなにしっかりそれぞれの町のことを調べて発表してくれていて、とても頼もしかったです。来て良かったです。	・このような取組にチャレンジされたことはとても素晴らしいことだと思います。小佐々地区の子どもたちが、具体的に他の地域の方と交流することによって、「外を見る力」「小佐々の良さを確認する力」がつくと思いました。	・子供たちの視野も広がったのではないかと思いますし、本土最西端の中学校であると再認識したかと思います。小佐々中の発表の中で、地域の温かさの中で学校生活を送っているという言葉がとてもうれしかったです。ありがとうございました。



当日は、多くの方にご来場いただき、ありがとうございました。交流会の様子は、新聞各社でも紹介されていますので、ぜひご覧ください。

前号でも記載いたしました、今後もこのような取組等をとって、生徒の「ふるさと」を思う心や、ICT活用能力をさらに育てていきたいと考えています。その際は、ご協力と応援のほど、よろしくお願いいたします。

←4校の生徒たちの笑顔です！